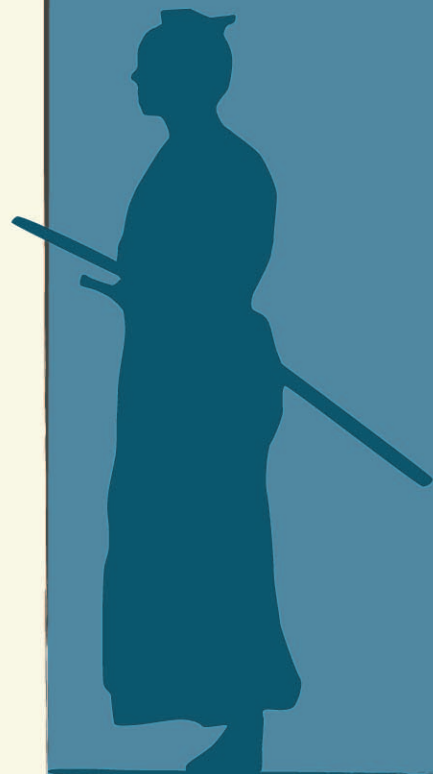




城下町の考古学

— 地面の下の世界遺産 —



世界遺産「姫路城」、その白亜の建造物群は、「白鷺城」の別名に相応しい威容を誇って、我々を圧倒し続けています。

ところが、往時の姫路城は、城下に広がる武家屋敷や町屋などを含んだ広大な複合体だったのです。残念ながら、今ではその大部分が失われ、地下遺構となって我々が普段眼にすることはできません。

今回の展示は、発掘調査の出土品から、姫路城に迫ろうとする試みです。地下に眠る世界遺産を再認識して頂く一助となれば幸いです。

最後になりましたが、数多くの発掘調査および本企画展の開催にご協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成19年9月30日

姫路市埋蔵文化財センター

凡 例

1. 本書は、平成19年9月30日（日）から平成20年1月14日（月・祝）まで姫路市埋蔵文化財センターで開催する企画展「城下町の考古学－地面の下の世界遺産－」の展示解説として作成した。
2. 展示品はすべて姫路市教育委員会が保管している。
3. 展示パネル及び本書に掲載している「昭和の大修理」の写真は姫路市立城郭研究室から、空中写真は姫路市情報化推進室から提供を受けた。遺構写真は各調査担当者が、遺物写真は福井が撮影した。
4. 本書には掲載していないが、展示で使用している城門絵図は多田初治『姫路城 中濠・外濠城門絵図』1978から転載した。
5. 企画は当センター専門職員が行い、北野弘子、香山玲子、田中章子、玉越綾子、寺本祐子、野村知子、三輪悠代の協力を得た。
6. 本書は、当センター専門職員が分担執筆し、中川が編集した。
7. 本展示にかかるポスター、チラシ及び本書は北野弘子がデザインした。
8. 本書に使用している調査箇所の名称は調査時の名称としている。また、A地区は現在の家老屋敷跡公園付近を、B地区は白鷺町を、C地区は大手前通りと本町商店街に挟まれた地域を、D地区はイーグレひめじ付近を指す。

城下町の考古学

姫路城下町は姫山を中心に三重の堀で囲まれていました。これらの堀によって天守をはじめ城の中核部が置かれた内曲輪、武家屋敷が立ち並んだ中曲輪、町人地・寺社を中心とした外曲輪に区分されます。このうち中曲輪以内は現在、世界遺産及び国の特別史跡に登録・指定されています。

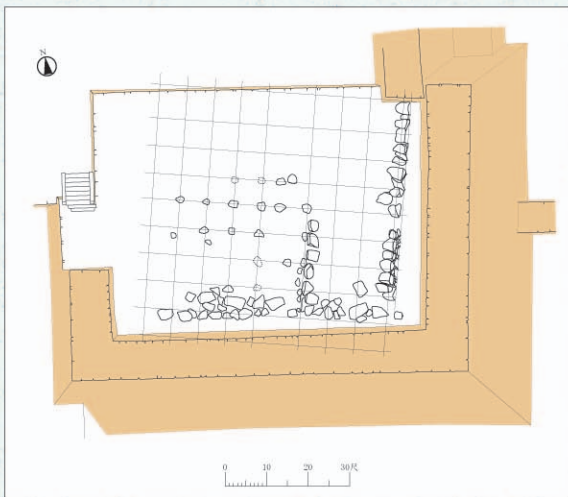
姫路城下町の発掘調査は、昭和51年(1976)以降、中曲輪を中心に行われ、現在247次を数えます。調査で見つかる街路や建物の跡から造り方や寸法、造り変えの有無などを知ることができます。また、出土する遺物からはそこに住んでいた人々の好みや趣向を知ることがも可能となります。調査によって明らかとなるこうした事実は、文献や絵図からは知ることのできない、ありのままの城下町の姿であるといえます。



大 天守地下

昭和25年から14年におよぶ「昭和の大修理」では、大天守を初めとして多くの建造物が解体修理され、姫路城に関する様々な情報が得られました。

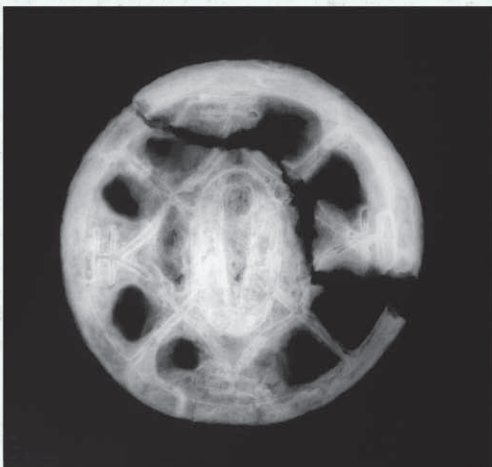
大天守においては、建築材の補修とともに、建築物の基礎となる土台部分の調査も行われ、その際に現在の天守の基礎約1.5m下から石垣と礎石が発見されました。それに伴って出土した遺物は16世紀後半のものであることから、羽柴秀吉が築いた天守の基礎であることが判明しました。このことから秀吉の城は「幻の城」ではなく現実のものであることが実証され、池田輝政が築いた城はこの秀吉の城を大きく改変して建造されたことが判明しました。この「大修理」に伴う一連の調査は現在につながる発掘調査の端緒となったもので、姫路城を語る上で欠くことのできない資料です。



大天守地下 旧礎石・石垣配置図



大天守地下から見つかった礎石と石垣



刀の鐔X線写真



大天守地下の出土遺物

初期城下町

姫路城の成立に伴い、城下町も形成されていきました。これまでの発掘調査成果から、16世紀中～後期には城の東側から南側に城下町が存在したと考えられています。

大手門南側(家老屋敷跡公園・城南線)の発掘調査では、礎石建物、土坑、井戸、溝などが見つかりました。これらの遺構は、池田輝政による城下町造成時に埋め立てられていることや、16世紀後半の遺物が出土していることから、秀吉一族の時代のものと考えられます。溝は南北方向に延び、上幅1.5m以上・深さは最大1mを測ります。城の東部や南東部でも同様の遺構が見つかり、屋敷地を区画する溝であった可能性があります。溝の方位がまちまちであることから、当時の城下町では街路も統一的な方向を採っていなかったのかもしれませんが。こうした初期城下町の規模や構造の把握は、今後の姫路城研究の大きな課題です。

秀吉の時代といえば、華やかな茶の湯文化がイメージされます。しかし、この時期の出土遺物は土師器や備前焼、貿易陶磁類が主体であり、茶道具も瀬戸美濃産の天目茶碗や茶入などで、必ずしも彩り豊かなものとはいえません。唐津や志野、織部に象徴される華麗な「桃山陶器」が姫路城下で盛んに用いられたのは、むしろ次の池田氏時代と考えられるのです。



礎石建物跡



竈



溝断面



A地区

池田氏時代

現在、目にする姫路城の建造物や遺構の多くは、慶長5年(1600)に播磨に入った池田輝政のもとで成立しました。三重の堀に囲まれ、整然とした町割をもつ城下町も同時に整備されたとみられます。「西国将軍」と呼ばれ権勢を振るった輝政の時代は、姫路城の歴史のなかでも際立っているといえます。

桃山文化の最盛期にもあたるこの時期の武家屋敷地からは、備前、唐津、志野、織部などの「桃山陶器」を含む、多彩で大量の遺物が出土することが特徴です。城下での活発な商業活動や茶の湯の盛行情がうかがえます。さらに、これらが時にはほぼ完全な形のまま、まとめて捨てられた背景としては、城主の交代・家臣数の減少に伴う城下町の改変、とくに武家屋敷から公的施設などへの用途変更が考えられます。



大手前公園



D地区



城下町出土の茶陶



三の丸

桜門

桜門は、姫路城の大手口に開く高麗門です。門内にはさらに枳形門(桐門)があり、合計3個所の城門で大手に相応しい厳重な構えをとっていました。

発掘調査の結果、門の礎石などは明治時代の改変で失われていましたが、門前の内堀から「桜門橋」の橋脚跡や、橋に使用されていた釘や鋸などが見つかっています。同じく堀から出土した刺又は、桜門内の番所に備えられていたものでしょうか。



桜門橋



桜門橋発掘調査で出土した金属製品

街路

街路は町割りの基礎となるもので、城下町の骨格といえます。当時の街路は礫敷きの舗装に石組みの側溝が付属したものでした。全ての街路が同じ規模や造りではなく、城の大手にあたる南側の街路は幅も広く、石組みも凝灰岩の割石を使用したもので、河原石を多用する城の東側や北側の街路に比べて造りも丁寧であることがわかってきました。

こうした街路は池田輝政により町割りが行われて以来、改修されながら江戸時代を通じ維持されてきました。



大手門前の街路



大名町の街路



下岐阜町の街路



上岐阜町の街路

藩主の交代

池田氏転封以後、本多氏、松平(奥平)氏、松平(結城)氏、榊原氏などの譜代大名が短期間で交代しながら藩主となりました。

池田氏に続く本多氏時代には西の丸や船場川の整備などが行われました。城下町では、この時期から肥前で焼かれた磁器が出土するようになり、その後急速に出土量が増加していきます。それに対して池田氏時代に多く見られた瀬戸美濃焼は減少していく傾向がうかがえます。

城下町の遺構の年代は、肥前磁器など全国各地に流通した焼物を基準として決めていきます。このためおおまかな遺物の変遷はわかりますが、藩主の交代が頻繁であったこの時期には、同じ場所を何代にもわたって屋敷地として使用しているため、各遺構がどの藩主の時代に属するのかは非常に判断しにくくなっています。



淳心学院

馬場と厩

家臣団の居住区域であった中曲輪には、武家屋敷の他にも馬場や厩、会所など公的な施設も設置されました。

馬場は中曲輪の北東部、現在の姫路東高校から姫路医療センターにかけて置かれていました。池田氏時代の武家屋敷地を17世紀前半のうちに転用したと考えられます。これまでの調査で、馬場と西側の武家屋敷地とは石組みの溝で区画されていたことが判明しています。

厩は大手に面した桜町に設けられました。絵図によれば、その成立時期は17世紀後期の第二次本多氏時代とみられます。発掘調査の結果、厩は東西に長い建物で、柱で区切られた約2m四方の空間に馬を1頭ずつ繋いでいたことがわかりました。それぞれの空間の中央部には丹波焼の甕が埋められています。馬の排泄物処理に用いたものでしょう。



厩跡

酒井氏時代

寛延2年(1749)、酒井氏が前橋から入封し、幕末までの約120年間藩主を務めました。この頃の姫路藩は、度重なる天災と、ピーク時には年間予算の4倍という多額の負債に苦しんでいました。その打開策として産業振興策がとられ、東山焼や皮なめしなど、中には今日まで伝わるような特産品が生まれます。これは姫路に限らず全国的な傾向で、各地で地方窯の操業が始まり、焼物のバリエーションが増えました。

城下町の発掘調査でも、酒井氏時代の遺構はそれ以前のものに比べて土器の出土量が格段に多く種類も豊富で、物流が盛んになっていった様子がうかがえます。この他、武家屋敷地では、酒井氏の入封と前後する時期に、井戸が壊されて庭が造られたりと、屋敷内の改変が目立つこともわかってきました。



姫路侍屋敷図

好古堂

藩校「好古堂」は、藩主酒井氏が家臣やその子弟のために開いた学校で、当初は現在イーグレひめじが建つ中曲輪総社門内に置かれました。その後場所が移り、最終的に今の好古園辺りに落ち着きました。

好古堂の跡地や付近の発掘調査では、堂所有を示す墨書入りの土瓶の蓋や、藩校運営に関わりの深い家老、河合寸翁ゆかりの鳥模様が入った染付皿や瓦が出土しました。市内兼田に今も残る河合家墓所には、同じ模様の瓦が葺かれています。



姫路市兼田 河合家の墓所



河合家ゆかりの鳥模様



墨書入りの土瓶の蓋

衣

浮世絵にみえる江戸時代の人々の姿からは、当時の風俗を垣間見ることができます。髪形はもちろんのこと、着物・帯の柄や着こなしにも流行があったことがうかがえます。そうした衣装に関する道具が姫路城城下町跡からも出土しています。特に装いのための鏡や簪といった道具や鬢水入れ・紅皿・お歯黒壺などの女性の化粧具が多く出土しています。現代の女性達と変わらず城下町の女性達もお洒落であったことは確かなようです。

男性の装いに関する道具では、江戸時代中期から流行した根付が出土し、印籠・矢立・煙草入れも日常的に使用されていたことがわかります。また、当時武士の魂とされた刀や刀装具は、出土すること自体が少ないので、非常に大切にされていたことがうかがえます。城下町における侍の姿を彷彿とさせる遺物といえます。



食

江戸時代には、台所に造り付けの竈が配置され、和食が調理されました。そこでは、多くの種類の焼物が使用されました。用途別に大きく分けると、料理をこしらえるための調理具と配膳のための食膳具があります。江戸時代初めには、肥前で国産磁器の生産が始まり、その後、各地で様々な焼物が生産されました。また、城下町から出土する焼塩壺は、当時の人々が塩の味にこだわるほど食通であったことを物語っています。



東山焼

姫路産の陶磁器で、江戸時代の文政年間(1818～1830)頃に現在の姫路市東山で焼かれ始めたと伝えられています。当初は民営でしたが、後に姫路藩の御用窯に切替えられました。窯の場所も姫路城の北西にある男山に移され、明治15年(1882)頃まで操業されました。

東山焼は藩の専売品として周辺に流通したようです。姫路でも武家屋敷跡の発掘調査などで「東山」「播陽東山」などの銘入りの染付や青磁が出土しています。



姫路市東山 東山焼窯跡遠景



東山焼の銘

文字資料

城下町の調査では、文字が記された遺物が見つかることがあり、その内容から様々な情報を得ることができます。

陶磁器には用途などが墨書され、刻印からは産地を特定することが可能となり、硯や焼塩壺からは当時のブランドを知ることができます。

瓦経は平安時代末に作られたものです。寛政年間に発見され、時の藩主酒井忠道の命で採拓した際の記録が残り、藩主の趣向をうかがい知ることができます。



瓦経の出土状況

住

当時の建物の大半は壊されて残っていませんが、発掘調査では建物の礎石や築地の基礎などが見つかります。発掘調査で最も多く出土する遺物は瓦であることから、建物の大半は瓦葺きであったと考えられますが、絵図をみると瓦葺き以外の建物もあったことがわかります。

屋敷内の生活は灯明具などの出土する遺物からうかがうことができます。仏飯具やお神酒徳利などが出土していることから屋敷内には神棚や仏壇があったことがわかります。煙管などの嗜好品、盆栽用の植木鉢、書画に關係する硯や水滴、落款印も出土しています。泥面子や箱庭道具、基石などからは様々な遊びがあったことを知ることができます。

また、武家屋敷の中には池や水琴窟が作られていたことも明らかになっています。



瓦

城下町の発掘調査で最も多く見つかるものは瓦で、様々な種類の瓦があります。

滴水瓦は文様部分が鈍角に接合されたもので、高麗瓦とも呼ばれます。建物に葺いた際に模様部分が地面と垂直になるように作られており、主に城内の建造物で使用されました。

文字瓦は瓦職人が自分の名前や年号を記したものです。下の2点は記された名前から、代々姫路城の瓦を作った御城瓦師大古瀬氏のものがわかります。



滴水瓦

「文化十三年」



「はりまひめじ
たつのまち四丁目
瓦屋市左衛門
□□□□□□」



「月日
回義種
造之」



池

武家屋敷の調査では、庭園の一部である池が見つかることがあります。石組みの小規模なものから、屋敷の一角を占める程のものまでと大きさも様々です。池の周囲には河原石による護岸を施した例が多く、砂利を敷きつめた池底や景石も見つかっています。

また、それまで井戸などがあり生活空間であったところを庭園に改変した例や改修により池の規模を変えた例も近年見つかっています。



大規模な池

底に砂利を敷いた池



不整形な池

方形の池

井戸

生活の上で欠くことのできないものが水です。江戸や赤穂などでは上水道が発達していましたが、姫路城下では主に井戸によってまかなわれていました。各武家屋敷の中には井戸が掘られ、発掘調査によって様々な井戸が見つかっています。



石組み井戸

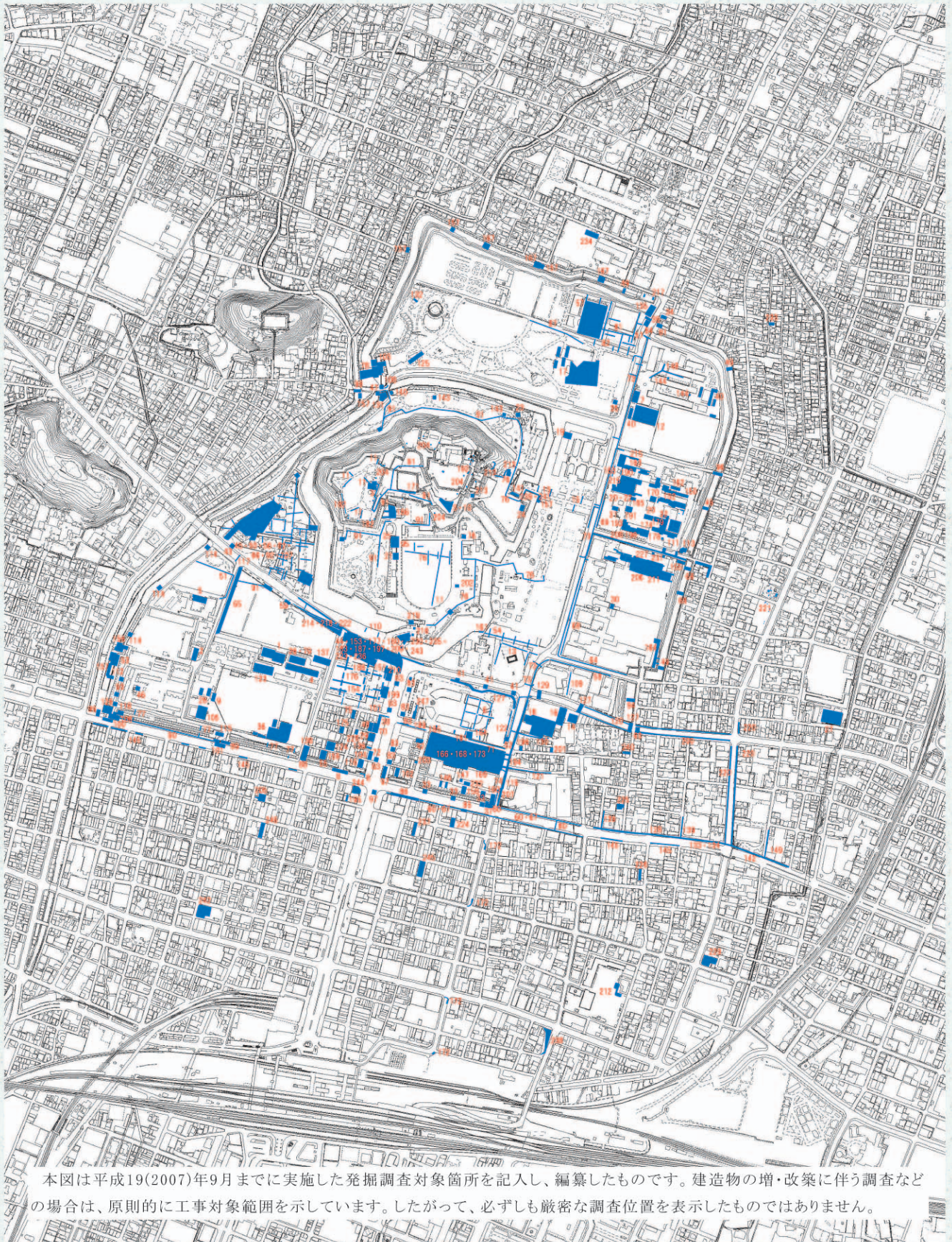


石組み+木組み井戸



木組み井戸

調査位置図



本図は平成19(2007)年9月までに実施した発掘調査対象箇所を記入し、編纂したものです。建造物の増・改築に伴う調査などの場合は、原則的に工事対象範囲を示しています。したがって、必ずしも厳密な調査位置を表示したものではありません。

調査箇所	事業名	調査箇所	事業名	調査箇所	事業名
1 市立白鷺中学校	市立教育研究所建設事業	84 野里門	街路整備事業	167 中堀	海洋化対策事業
2 県立姫路豊学校	プール改築事業	85 国道2号線(綿町)	共同溝建設事業	168 D地区	お城本町地区市街地再開発事業
3 二の丸・西の丸	防火用貯水槽設置事業	86 国道2号線(東邦生命前)	共同溝建設事業	169	NTTとう道移設に伴う調査
4 市立白鷺中学校	校舎改築事業	87 県立歴史博物館北側	管路新設事業	170 国立姫路病院	更新整備事業
5 県立姫路豊学校	校舎改築事業	88 城東1号線(国道2号線～姫路社会福祉事務所跡地)	管路新設事業	171 三国堀南	史跡整備事業・三国堀南石垣修理事業
6 大手前公園東半分	駐車場拡幅事業	89 鷲門	南部土塁整備事業	172	NTTとう道移設に伴う調査
7 県立姫路東高校	同窓会館建設事業	90 埋門	管路新設事業	173 D地区	お城本町地区市街地再開発事業
8 中ノ門	国道2号線整備事業	91 内曲輪・中曲輪／北勢隠門	公衆トイレ整備事業	174 国立姫路病院	更新整備事業
9 市立城南小学校	クラブハウス建設事業	92 姫路公園	西御屋敷跡整備事業	175 B地区	個人住宅新築工事
10 二の丸(上山曲輪)	消火栓設置事業	93 西部土塁(埋門～車門)	西部土塁整備事業	176 A地区	家老屋敷跡公園整備事業
11 三の丸・西の丸	消火栓設置事業	94 東部中堀	中堀還流整備事業	177 A地区	家老屋敷跡公園整備事業(便益施設建設予定地)
12 県立姫路東高校	体育館改築事業	95 三の丸	せせらぎ整備事業	178 国立姫路病院	更新整備事業
13 商工会議所跡地・東税務署跡地	公園整備事業	96 竹田橋	中堀還流整備事業(竹田橋付替事業)	179 国立姫路病院	更新整備事業
14 姫路郵便局	通信診療所建設事業	97 大手前地下駐車場	進入路建設事業	180 A地区	都市計画道路城南線整備事業
15 姫路市役所跡地	姫山公園入口公園整備事業	98 清水橋	城西12号線整備事業(清水橋付替事業)	181 市道城南20号線	電線共同溝設置事業
16 姫路郵便局	局舎増築事業	99 白鷺橋	国道2号線整備事業(白鷺橋付替事業)	182 内曲輪	西の丸防火工事
17 姫路市役所跡地	県立歴史博物館建設事業	100 埋門	国道2号線整備事業	183 A地区	家老屋敷跡公園整備事業(便益施設建設予定地)
18 姫路郵便局	局舎増築事業	101 鷲門	国道2号線整備事業	184 大手前公園	地下道建設
19 姫路市役所跡地	市立美術館渡り廊下建設事業	102 C地区	家屋建替	185 大手前公園	園路整備工事
20 国立姫路病院	機能訓練棟・放射線棟建設事業	103 清水門	史跡整備事業	186 内曲輪	姫路城防災センター整備事業
21 三の丸売店南	管理事務所移転整備事業	104 B地区	家屋建替	187 A地区	家老屋敷跡公園整備事業(便益施設建設予定地)
22 国立姫路病院	母子医療センター建設事業	105 市立城南小学校	プール改築事業	188 A地区	都市計画道路城路整備事業
23 姫路神社裏	管理事務所移転整備事業	106 埋門	南部土塁整備事業	189 市道城南20号線	電線共同溝設置事業
24 喜寄門南	管理事務所移転整備事業	107 姫路公園	西御屋敷跡整備事業	190 国立姫路病院	更新整備事業
25 迎賓館南	管理事務所移転整備事業	108 北勢隠門	城西12号線整備事業	191 国立姫路病院	更新整備事業
26 市立白鷺中学校	技術教室建設事業	109 姫路警察署	排水管敷設替事業	192 内曲輪	防災施設整備事業
27 外京口門	市立東光中学校体育館建設事業	110 城南線	大手門周辺電柱地中化整備事業	193 国立姫路病院	更新整備事業
28 市立城南幼稚園	園舎改築事業	111 姫路国立病院	受電棟新築事業	194 砥堀本町線	共同溝整備
29 B地区	家屋建替	112 西部中堀	史跡整備事業	195 本町	共同住宅建設
30 私立淳心学院	部室・倉庫改築事業	113 久長門	史跡整備事業	196 中曲輪	店舗建物改修
31 国立姫路病院	外来棟建設事業	114 西部土塁	史跡整備事業	197 A地区	都市計画道路城南線整備事業
32 国立姫路病院	リニアック治療棟建設事業	115 鷲門	史跡整備事業	198 国立姫路病院	更新整備事業
33 国道2号線(総社門～大手前通)	国道2号線整備事業	116 B地区	家屋建替	199 A地区	家老屋敷跡公園整備事業(便益施設建設予定地)
34 野里門	露天駐車場建設事業	117 城南線	史跡整備事業	200 大黒老丁町	城南線共同溝整備
35 姫路市役所跡地	県立歴史博物館 南東公衆トイレ整備事業	118 埋門	史跡整備事業	201 中曲輪	店舗建物改修
36 市立白鷺中学校	プール・砂場・部室建設事業	119 砥堀・本町線	管路新設事業	202 姫路市立動物園	トイレ改修
37 総社門	国道2号線整備事業	120 城南線	共同溝建設事業	203 C地区	店舗建物改修
38 B地区	家屋建替	121 城南135号線	管路新設事業	204 内曲輪	防災施設整備事業
39 野里門	姫路消防署野里分団建替事業	122 大手前公園	管路新設事業	205 本町	マンション建設
40 県立姫路東高校	プール建設事業	123 市立城南小学校	屋内運動場改築事業	206 淳心学院	淳心学院整備事業
41 城南線(大手前公園北)	シンボルロード照明事業	124 B地区	家屋建替	207 中曲輪	県立歴史博物館共同溝建設事業
42 C地区	家屋建替	125 シロヒバ記念公園	休憩所建設事業	208 東部中堀線	東部中堀線整備事業
43 山陽石油跡地	公園整備事業	126 埋門	史跡整備事業	209 A地区	家老屋敷跡公園整備事業(便益施設建設予定地)
44 A地区	家屋建替	127 大手前公園他	管路新設事業	210 A地区	家老屋敷跡公園整備事業(便益施設建設予定地)
45 国鉄宿舎跡地	西御屋敷跡整備事業	128 国道2号線	共同溝建設事業	211 淳心学院	更新整備事業
46 県営本町住宅	集会所建設事業	129 A地区 城南線	城南線歩道改良事業	212 城巽小学校	プール改築事業
47 北勢隠門	中堀導水管敷設事業	130 姫路郵便局南	管路新設事業	213 内曲輪	防災施設整備事業
48 B地区	家屋建替	131 北勢隠門	史跡整備事業	214 A地区	都市計画道路城南線整備事業
49 東部・北部中堀	中堀還流事業	132 シロヒバ記念公園	資材置場兼作業場移設事業	215 国立姫路病院	更新整備事業
50 営林署宿舎跡地・国鉄宿舎跡地	西御屋敷跡整備事業	133 国道2号線	共同溝建設事業	216 大手門	史跡整備事業
51 県立姫路豊学校	バックネット設置事業	134 国道2号線	共同溝建設事業	217 北部中堀	北部中堀整備事業
52 大手前公園	公衆トイレ整備事業	135 野里門跡	歩道建設事業	218 A地区	都市計画道路城南線整備事業
53 車門	船場川河川整備事業	136 B地区	家屋建替	219 旧大鼓橋跡	旧大鼓橋跡石垣修理に伴う発掘調査
54 東税務署跡地(内堀～砥堀・本町線)	中堀導水管敷設事業	137 大手門駐車場南	管路新設事業	220 国道372号線	国道372号線共同溝整備事業
55 B地区	家屋建替	138 城南24号線	NTT立町支障移転事業	221 五軒邸	公園改修事業
56 営林署宿舎跡地・姫路公園	西御屋敷跡整備事業	139 商工会議所前	管路新設事業	222 A地区	都市計画道路城南線整備事業
57 本町拘留所跡地	市立日本城郭研究センター建設事業	140 北勢隠門	史跡整備事業	223 A地区	都市計画道路城南線整備事業
58 城東27号線(内京口門～砥堀・本町線)	管路新設事業	141 喜寄門	史跡整備事業	224 綿町	住宅建設
59 大手前駐車場	料金所建設事業	142 国道2号線	共同溝建設事業	225 総社本町	事務所建設
60 国道2号線(大手前通東端～不明門)	共同溝建設事業	143 姫山公園	公園灯改修事業	226 元塩町	住宅建設
61 野里門	野里門特定郵便局建替事業	144 県立姫路東高校	衛生設備改修事業	227 淳心学院	更新整備事業
62 営林署宿舎跡地・姫路公園	西御屋敷跡整備事業	145 国道2号線	共同溝建設事業	228 本町	住宅建設
63 城南線(大黒老丁町)	管路新設事業	146 南部土塁	姫路城周辺整備本部仮設事務所建設事業	229 北條口	共同住宅建設
64 城東27号線(内京口門～砥堀・本町線)	中堀導水管敷設事業	147 NTT姫路支店	NTT姫路支店駐車場整備事業	230 大手門	史跡整備事業
65 城東25号線(城南線～城南小学校北側)	遊歩道整備事業	148 県立姫路東高校	空調設備設置事業	231 本町	公共下水樹設置事業
66 国鉄宿舎跡地・姫路公園	西御屋敷跡整備事業	149 商工会議所裏側	管路新設事業	232 本町	地下油槽改修
67 国道2号線(総社門および南部中堀)	共同溝建設事業	150 国立姫路病院	更新整備事業	233 五郎衛門邸	個人住宅建設
68 東部中堀	中堀還流整備事業	151 A地区	家老屋敷跡公園整備事業	234 坊主町	学校整備
69 砥堀・本町線(城東27号線～私立賢明女子学院前)	歩道整備事業	152 国立姫路病院	更新整備事業	235 大手門	史跡整備事業
70 B地区	家屋建替	153 A地区	管路新設事業	236 A地区	都市計画道路城南線
71 大手前公園南	管路新設事業	154 A地区	家老屋敷跡公園整備事業	237 綿町	個人住宅建設
72 B地区	家屋建替	155 久長門	史跡整備事業	238 北条口	区画整理事業
73 砥堀・本町線(私立賢明女子学院前・野里門)	管路新設事業	156 車門	史跡整備事業	239 喜寄門	史跡整備事業
74 砥堀・本町線(城東27号線～総社門)	管路新設事業	157 内～中堀	海洋化対策事業	240 総社本町	個人住宅建設
75 B地区	家屋建替	158 総社門	総社門跡西方南部土塁緑道整備事業	241 喜寄門	史跡整備事業
76 内曲輪	公衆トイレ整備事業	159 B地区	B地区個人住宅新築工事	242 十二所前町	マンション建設
77 南部土塁(中ノ門～埋門)	南部土塁整備事業	160 総社門跡	都市計画道路事業・緑道整備事業	243 大手門	史跡整備事業
78 清水門	史跡整備事業	161 内堀	内堀浚渫工事	244 本町	ビル建設
79 市立白鷺中学校	格技場建設事業	162 国立姫路病院	更新整備事業	245 二階町	マンション建設
80 国道2号線(NTT姫路支店別館南)	管路新設事業	163 国立姫路病院	更新整備事業	246 西二階町	マンション建設
81 本町拘留所跡地	市立日本城郭研究センター建設事業	164 内京口門	史跡整備事業	247 大手前公園	公園整備事業
82 本町拘留所跡地	市立日本城郭研究センター建設事業	165 国立姫路病院	更新整備事業		
83 大手前通	街路灯電源増設事業	166 D地区	お城本町地区市街地再開発事業		



平成19年度秋季企画展「城下町の考古学—地面の下の世界遺産—」展示品目録

番号	品名	数量	出土地点	番号	品名	数量	出土地点	番号	品名	数量	出土地点	番号	品名	数量	出土地点
1	冑	1	内堀	39	土師皿	4	D地区	77	備前甕	1	三国堀	115	仏飯器	2	瀬心院・姫路医療センター
2	鉄釉茶入	1	大天守地下	40	焼塩壺	2	D地区	78	丹波甕	2	A地区	116	襖金具	1	淳心学院
3	備前德利	1	大天守地下	41	焼塩壺蓋	2	D地区	79	簪	1	D地区	117	煙管	1	桜門
4	備前播鉢	1	大天守地下	42	唐津皿	4	D地区	80	櫛	1	D地区	118	銅銭	4	白鷺中学校
5	白磁皿	1	大天守地下	43	唐津鉢	2	D地区	81	鏡	2	D地区	119	硯	2	淳心学院
6	土師皿	3	大天守地下	44	唐津向付	2	D地区	82	紅皿	2	姫路医療センター	120	水滴	3	淳心学院
7	罽	1	大天守地下	45	唐津碗	4	D地区	83	鬘油壺	1	D地区	121	落款印	2	姫路医療センター
8	瓦	1	A地区	46	唐津大皿	1	D地区	84	鬘水入れ	2	淳心学院	122	物差	1	淳心学院
9	灰釉ヒダ皿	1	A地区	47	灰釉灯明具	2	D地区	85	お歯黒壺	1	淳心学院	123	植木鉢	1	姫路医療センター
10	備前播鉢	1	A地区	48	灰釉ソギ皿	1	D地区	86	段重	1	姫路医療センター	124	泥面子	11	淳心学院
11	備前小壺	1	A地区	49	青織部向付	1	D地区	87	根付	1	淳心学院	125	ままごと道具	6	D地区・白鷺中学校
12	瓦質火鉢	2	A地区	50	志野小碗	1	D地区	88	鞘	1	内堀	126	箱庭道具	12	白鷺中学校・D地区・淳心学院
13	天目茶碗	1	A地区	51	志野菊皿	1	D地区	89	目貫金具	2	A地区	127	土人形類	8	内堀・瀬心院・姫路医療センター・白鷺
14	土師皿	3	A地区	52	手付鉢	1	白鷺中学校	90	罽	2	A地区・綿町	128	将棋の駒	1	白鷺中学校
15	白磁皿	1	A地区	53	備前水指	1	白鷺中学校	91	包丁	2	白鷺中学校	129	基石	2	白鷺中学校・淳心学院
16	灰釉茶入	1	A地区	54	備前掛花入	1	淳心学院	92	卸金	1	本町	130	丁銀形土製品	1	姫路医療センター
17	備前瓶	1	A地区	55	備前大平鉢	1	淳心学院	93	火箸	1	D地区	131	灰落し	1	姫路医療センター
18	灰釉皿	1	A地区	56	備前播鉢	1	淳心学院	94	焜炉	1	淳心学院	132	瓦経	2	内堀
19	備前播鉢	1	A地区	57	鯪	1	内堀	95	火消壺	1	白鷺中学校	133	墨書土器	6	D地区・姫路医療センター
20	青花碗	2	A地区	58	鬼瓦	1	内堀	96	塙	2	淳心学院	134	刻印のある土器	4	D地区・姫路医療センター
21	灰釉皿	1	A地区	59	刺又	1	桜門	97	土瓶	1	淳心学院	135	暦茶碗	1	姫路医療センター
22	土師皿	3	A地区	60	鑿	2	桜門	98	焼塩壺	2	淳心学院	136	硯	2	中堀・D地区
23	土塙	1	A地区	61	鋸	7	桜門	99	播鉢	1	淳心学院	137	焼塩壺	3	中堀・淳心院・姫路医療センター
24	青花皿	2	A地区	62	釘	2	桜門	100	焙烙	1	淳心学院	138	墨書土器	1	A地区
25	天目茶碗	2	A地区	63	滴水瓦	3	城内・内堀	101	碗	3	淳心学院	139	東山焼皿	3	D地区
26	白磁皿	1	A地区	64	文字瓦	4	城内・A地区・淳心学院	102	皿	3	白鷺中学校・淳心学院	140	河合家ゆかりの瓦	5	D地区
27	鉄釉小鉢	1	A地区	65	唐津碗	2	白鷺中学校	103	煎茶碗	6	淳心学院	141	東山焼皿	11	D地区
28	備前水差	1	A地区	66	唐津溝縁皿	2	白鷺中学校	104	盃洗	1	A地区	142	東山焼碗	3	D地区
29	墨書のある石	1	大天守地下	67	唐津杯	2	白鷺中学校	105	德利	3	B地区・淳心学院	143	東山焼煎茶碗	6	D地区
30	赤織部大皿	1	三の丸	68	唐津小壺	1	白鷺中学校	106	たんころ	1	姫路医療センター	144	東山焼德利	1	D地区
31	志野鳥形水滴	1	三の丸	69	青花皿	1	白鷺中学校	107	灯明皿	1	淳心学院	145	東山焼蓮華	1	D地区
32	黄瀬戸向付	1	三の丸	70	伊万里皿	6	白鷺中学校	108	乗燭	2	姫路医療センター	146	東山焼燭台	1	D地区
33	織部黒茶碗	1	三の丸	71	伊万里碗	3	白鷺中学校	109	台付灯明皿	2	姫路医療センター	147	東山焼陶器鉢	1	D地区
34	志野茶碗	1	日本城郭研究センター	72	青花碗	2	白鷺中学校	110	燭台	1	A地区	148	窯道具	7	内堀
35	鼠志野向付	1	姫路医療センター	73	土師皿	2	白鷺中学校	111	油德利	1	姫路医療センター	149	陸軍食器	3	内堀
36	青織部向付	1	白鷺中学校	74	土塙	1	白鷺中学校	112	香炉	1	D地区	150	アルミ食器	3	内堀
37	鉄釉茶入	1	帯の櫓	75	丹波鉢	1	白鷺中学校	113	仏花瓶	2	白鷺中学校・姫路医療センター	151	葉莢	2	内堀
38	志野茶入蓋	1	淳心学院	76	丹波播鉢	1	白鷺中学校	114	お神酒德利	2	D地区・姫路医療センター	152	焼夷弾	2	内堀

姫路市埋蔵文化財センター

Himeji City Archaeological Research Center

〒671-0246 兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
 TEL (079)252-3950 / FAX (079)252-3952
 URL <http://www.city.himeji.hyogo.jp/maibun-center/>
 E-mail maibun-center@city.himeji.hyogo.jp